

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム さくら花泉 (B棟ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0390900090号		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホームさくら 花泉 B棟ユニット		
所在地	〒029-3105 岩手県一関市花泉町涌津字二ノ町43-1		
自己評価作成日	平成22年9月29日	評価結果市町村受理日	平成 23年 1月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900090&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念に謳われている「その人らしく」を大切に生活していただけるように、生活の拠点が変わっても、これまでの生活スタイルを極力崩さず、ありのままの自分で生活していただけるよう、馴染みの病院、理容室、お店など、利用者様一人ひとりの希望、要望に応じ、継続して利用できるよう支援している。

・敷地より離れますが、本社の方に大きな畑があり、季節ごとの野菜作りや姉妹施設の利用者様方と交流しながら楽しく収穫することができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、平成22年3月に開設した新しい事業所であるが、利用者は増加している。施設面では将来を見越して、夫婦が利用できる部屋や、利用者ニーズに対応するため部屋の大きさを多様にしたり、更に浴室も重度化に対応できるよう最新の「介護自立支援浴室システム」を導入するなど工夫が見られる。スタッフも経験年数の多い職員を配置し、日常的な健康管理に安心感が見られ、さらに職員の交換研修や養成研修(例えば、目線・視線、声掛け、気配り、接遇などに焦点をあてたもの)にも力を入れている。利用者は、「アットホームな自由なゆったりとした暮らし」の中で職員の目配り、気配り、声掛けなどで見守られながら、利用者も落ち着いた雰囲気に関係も良く、「地域一番の笑顔」で「その人らしく」心地よく暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム さくら花泉 (B棟ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念に基づき、ホームの標語を全スタッフから募り一年間の目標に掲げ介護に取り組んでいる。	ホームの理念「その人らしく・・・」「地域に根差し・・・」の下で、更に職員から実践目標の標語を公募（「アットホームな暮らし」「地域一番の笑顔」）し、具体的な取り組みの在り方を工夫しながら職員は積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。行きつけの理容室が決まっていない方は、地域の床屋さんをお願いし、理髪して頂いている。	開所間もないが、地域の独自行事である互市や日本一の餅つき大会、芋煮会等に積極的に参加したり、地域の方々の参加を募り一緒に救命救急の講習を実施したほか、今後は近くの中学校の体験実習を受入れ交流を図りたいとしている。	地域との付き合いを大切に、様々工夫しながら取り組んでいる。ホームの”地域交流室”を活用した地域の方々のお茶飲みや、保育園児への遊び場解放の取り組み等は素晴らしいことであるので、今後の活動の広がりに大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通し、地域交流室の提供を呼びかけたり、AED設置していることも折につけ情報提供している。9月には地域の方にも呼びかけ、救急救命の講習会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月に第一回運営推進会議を開催。以降2ヶ月に1回実施している。会議で出された意見や行事内容等を参考に生活の質の向上を目指しケアにあたっている。	委員から地域情報や、”地域交流室”でのひとり暮らしの交流会やお茶のみ等の利用提案があったり、第三者委員の窓口、避難訓練の協力など、活発な意見交換が行われ運営推進会議の存在は高まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所申し込みが思わしくない状態であり、折につけ入所状況等を報告している。又、人員配置についての相談等を受けていただいている。	当初、入居状況に厳しい面もあったが、日頃から市との情報交換を密にしたことなどにより入居増に繋がっているなど、行政との協力関係は円滑に図られている。また、介護相談員の派遣により利用者の意向等の把握に活かす工夫をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中は開放している。常時所在確認、目配りを行い拘束しないケアに心がけている。研修に参加するなど、スタッフのスキルアップにも努めている。	身体拘束廃止や、虐待の防止、権利擁護について法人全体で全職員を対象とした研修を行うなど理解に努めている。また何が拘束になるのかなど、具体的な行為についてミーティングで話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、その資料や内容を報告する場を設けると共に回覧で周知し、全スタッフで情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経験の浅いホームであり、今後研修会などに参加し、理解を深めていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書や重要事項説明書の内容を説明し、理解していただいて契約している。入所後もいつでも疑問や質問に答えることを併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や第三者からの苦情や意見を幅広く聴くために玄関に意見箱を設置している。又、運営推進会議への参加を呼びかけ、意見の場を広く設けている。	家族の面会時や、ケアプランの説明時を利用し意見を聞くほか、運営推進会議や第三者委員を通じての利用者や家族の意見や要望を聞いて反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回全体会議を開催し、経営者と話し合いの場を設けている。ホーム内では月に一度のミーティングで意見交換を行い、必要時には経営者に報告している。	毎月開催する職員間の意見交換で勤務シフトや研修の在り方等のほか、ホーム運営に必要なカラオケセット等の環境整備について話し合い、事案により2か月毎に開催する経営者を含めた全体会議で協議し反映するようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務作成時には、希望休を聞き入れ作成。資格取得のための休暇や資格手当も整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を始め、ホーム内でもミーティングや全体会議内で勉強会を開き、個人及び全体のスキルアップが図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、研修会への参加や情報交換ができるようにしている。10月には交換研修が予定されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に居宅ケアマネと協力し、連携がスムーズに行われるよう調整。又、自宅に赴き本人より、不安や希望の聞き取りを行い、安心した状態で入所できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に居宅ケアマネと協力し、連携がスムーズに行われるよう調整。又、自宅に赴き家族より心配や不安を傾聴し、ホームでの生活を理解していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含め、居宅ケアマネ・家族・本人と話し合いを行い、その時のニーズに即したサービス提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや調理の下準備など出来る範囲でスタッフと一緒にいき、感謝の意を伝えながら、次につながるような支援を行い、IADLの向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月便りを発行し、行事では一緒に楽しんでいただけるよう、案内の通知を出したり、外出・外泊は自由に行って頂き、家族との大切な時間を過ごしてもらえるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問と称し、入所前に歩いていた山へ行ったり、自宅を訪問したりと希望を取り入れながら、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	本人の希望を大切にし、利用者の馴染みの山菜をとり山に出かけたり、馴染みの美容室に「来たよ」と言って毛染めして貰ったり、また自宅訪問や墓参をしたり、お友達の訪問をお願いするなど、利用者の”思い出の幸せ”を大切にし実践する取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛け合ったり、助け合っている姿が見られ、利用者間でのつながりも感じられるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会いを大切にし、つながりのある関係づくりを行って行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話からはもとより、担当と計画作成担当者が定期的に聞き取りを行い、現在の満足度や希望、意向の把握に努め、毎月行うミーティングの中で話し合いを行いプランに反映させている。	普段の会話の中から本人の意向、希望等を介護カルテに書きとめ、その情報を共有しているほか、時には家族からその内容を確認しケアプランに反映している。把握困難な方もおり、行動や表情を見ながらゆっくりと傾聴したり、家族から聞くなど丁寧な把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネから頂いた情報をベースに、日常会話の中で知りえた情報、面会時に知りえた情報等を書き加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で会話する機会を多く持ち、発見した出来ること、出来なくなったことなどを記録し、スタッフ間で情報を共有することで、統一した支援が継続できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは面会時に、気になる事等の聞き取りを行い、担当とケアマネがそれぞれ時期をずらして本人からの聞き取りで意向を見極めながら、棟内カンファレンスを行い計画を立てている。	ケア等の在り方については、本人・家族の意向やケアに関わった職員から聞き取り行う等のカンファレンスを各棟毎に行い、その結果をもとに計画担当がケアプランを作成している。見直しは3か月ごとに行い、家族への報告は毎月面会時に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個々人の記録に記入し、1日を通しての状態を把握できるようにし、モニタリングやプランの見直しに活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への外泊希望時の送迎や入院時の洗濯など、家庭の事情も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣中学校の職場体験の受け入れを希望したりしながら、少しずつ地域との交流を進めている。 AEDを設置しており、スタッフは講習を受けている。。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の聞き取りで、本人・家族の希望を聞き、入所前からのかかりつけである医師に、入所後もかかれるよう支援。スタッフが通院介助しながら医療機関と連携し、継続して適切な治療が受けられるよう努めている。	医療受診は本人・家族の希望するかかりつけ医（県外のかかりつけ医もある。）とし、定期的な受診はスタッフ（ケアマネ）が同行し、病状に応じた適切な対応をしている。家族にはその都度電話で報告したり、月1回の家族報告書や来訪時に知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は配置されていないが、必要時訪問看護との連絡調整は取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状況経過を報告。入院中も定期的に面会し病棟看護師より状況を聞いたり、家族に状況を確認している。 そうした場合に備え、通院時にはスタッフが付き添い、病院関係者との関係作りを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新しい事業所であり、今後見取りを行うことを前提に協議している。	ホームの方針は「看取りを行うことを前提」にしており、今後は、入居者の入居経過を見ながら必要な対応を図りたいとしている。	事業所は看取り対応する方針であることから、運営推進会議等でその方針等を説明し、家族の安心感に繋げることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内にAEDを設置しており、9月には、地域の方も交え、救急救命の講習会を受けたり、マニュアルを作成し、常に目を通せるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の想定訓練を行い、災害時の非難誘導を利用者とスタッフ相互で身につけている。	スプリンクラー、自動火災通報装置、消火器、誘導標識を整備している。避難訓練は年に2回以上の予定で9月に開所初めての夜間想定での避難訓練をしている。また、救命救急の講習を地域の方々にも呼びかけ消防署の協力のもと行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、言葉遣いや声の高さに注意して生活支援を行っている。	大先輩である利用者と呼ぶときは「さん付け」で呼び、声のトーンも話し相手に合わせて対応している。また、排泄も時間帯を見計らい利用者の耳元で声をかけ居室に誘導するなど、本人の心情や他の利用者への配慮も気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や洗濯、散歩など希望や訴えのある時には一緒に出かけたり、余暇活動やおやつ飲み物など数種類準備し、好みのものを選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別介護に心がけ、各々のペースで生活していただけるよう食事にしても時間に余裕を持たせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には、馴染みの理美容室に出かけたり、近所の理容師さんの出張理容を受けたりしながら、その人らしく居られるよう支援している。 衣類の選択に関しては自主性を重んじている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や行事食を取り入れながら、野菜の下準備や片付けは手伝っていただいている。 好き嫌いのある方には別メニューを提供し、食べる楽しみを感じていただいている。	献立は利用者の希望を聞いて作成し、買い物は利用者と一緒にしている。食事は、時間がかかっても完食するまで職員は急がずことなく見守り、ゆったりとした環境で食事を楽しんでいる。なお、おやつは喫茶方式を取り入れ、注文するとおやつが出てくる楽しいティータイムとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の制限がある方に関しては、医師の指示を仰ぎながら、制限の範囲で提供。又、摂取量が気になる方は摂取状況を記録に残し、時間にとらわれず、摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、共同の洗面台や自室の洗面台を使用し、各々の能力に応じ、自力または一部介助で口腔ケアを行っている。その際、自力の方でも口腔内の確認は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄パターンの把握に努め、事前誘導や声かけを行うことで、オムツ外しから、トイレでの排泄と段階を経て自立に向けた取り組みを行っている。	適切なトイレ誘導をした結果、入居後おむつを取った方が多くなったほか、尿取パットの使用や夜間のポータブルトイレへ切り替えなどで利用者の自信・安心感に繋げており、家族も喜んで。利用者のすっきり感やかゆみの軽減等の成功例で職員は自信がついている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表により、各々の排便を確認している。便秘予防とし、おやつ又は、食事時に乳製品を提供したり、散歩や入浴時の腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、入浴の希望を聞いて対応しているが、血圧との関係で希望に応じられない時には清拭で対応している。	入浴時は思い出し話や、情報交換、歌を歌ったりなど楽しい入浴支援としている。入浴が嫌いな方には家族の協力を得て一緒に入ってもらうなど工夫をしている。なお、浴室は最新の「介護自立支援浴室システム」で利用者やスタッフにも負担がかからない将来を見越した設備の導入となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休息を取りたい方には休んでいただいて。又、必要時にはアイズノンを提供して休んでいただく等安眠に心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出される薬についての説明書をスタッフがいつでも確認できるようにファイルしている。又、変更時には薬箱に記載し、適切に服薬支援ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事であったり、音楽活動であったり、たばこ、編み物、各々が入所前から行っていた楽しみや生きがいは継続して行っていたき、張りのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	催し物やお祭り等、新聞に出ていて利用者間で話題になると、その日のうちに見物に行ったり、個別で行って見たいとの希望があれば、必要時には家族に連絡し出かけている。	春は花見、花泉夏祭り、また母体の登米の施設に行って野菜つみ、秋は紅葉がりを予定、また散歩しながらホーム裏にある役所へ一緒に出かけたりしている。現在、ホーム裏の畑の借用をお願いしており新たな楽しみが増えるとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向も加味しながら、現金がないと不安な方、管理が可能な方には所持していただき、希望時には買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所にある電話、棟にある子機を使用し何時でも電話できるようになっている。又、電話番号を忘れないようメモに残し壁に貼ることで、安心感が得られている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには行事で撮った写真や活動をカレンダーにして展示したり、玄関には、手すりや備え付けの椅子を置き、安心して脱ぎ履き出来るようにしている。	共用空間の廊下や食堂兼リビングは天窓からの採光で明るさに工夫され、壁には折紙の花や敬老会の写真等貼っていて、家庭的な雰囲気がある。大型テレビが設置され観賞する方、談笑する方、心地よく過ごしている。台所の調理の物音も聞こえ家庭で過ごしている安心感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地域交流室にテーブルと椅子を置き、外が眺められるようになっており、お茶を飲みながら過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や位牌を持ち込まれ、毎朝水を替える習慣をそのまま継続して行っていただいたり、家族の写真等を飾っていただいたりし、安心した生活が継続できるよう支援している。	それぞれの居室には、使い慣れた家具や、位牌、仏壇が置かれ、思い出の家族の写真、手作りカレンダーが飾られている。男性が多く個室の洗面台で髭剃りをしていることから、女性も刺激されて身だしなみに気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に洗面台を設置し、食後の口腔ケアが、容易に出来たり、小物の洗濯等自分で行えるようになっている。		